

資料研究所活動報告書

所長 黒沢 高秀

○研究目的

福島大学で所蔵している研究資料や郷土資料の適正保管や活用を図るとともに、図書資料や各種情報と結びつけ、教育・研究・地域との連携を推進する。

○研究メンバー

＜研究代表者（研究所長）＞

黒沢高秀（共生システム理工学類・教授）

＜研究分担者（プロジェクト研究員）＞

菊地芳朗（行政政策学類・教授）

阿部浩一（行政政策学類・教授）

塘 忠顕（共生システム理工学類・教授）

徳竹 剛（行政政策学類・准教授）

＜連携研究者（プロジェクト客員研究員）＞

澁澤 尚（人間発達文化学類・教授）

小松賢司（人間発達文化学類・准教授）

笠井博則（共生システム理工学類・准教授）

難波謙二（共生システム理工学類・教授）

鍵和田賢（人間発達文化学類・准教授）

○研究活動内容

大学貴重資料の整理・活用

経済経営学類と協力して、福島高等商業学校資料に、資料番号を付け分類するなどの整理を開始した（図1）。

福島大学共生システム理工学類生物標本室FKSEでは2016年4月1日～2017年3月31日の間に、後述の研修会や標本同定会参加者も含めてのべ93名の学外の研究者の訪問利用があった。また、行政や研究者からの11件標本データベースのデータの照会に対応した。国内の博物館からの標本の貸し出し依頼2件（172点）に対応した。国内の博物館・植物園に標本の寄贈を2件（2点）行い、国内の博物館1館から交換標本182点を受け入れた。

HPによる情報発信

HP（http://www.sss.fukushima-u.ac.jp/~kurosawa/IUMC_Fukushima_Univ/fukushima_ac.html）で本研究所および研究所のメンバーの活動を紹介するとともに、県内を中心とする貴

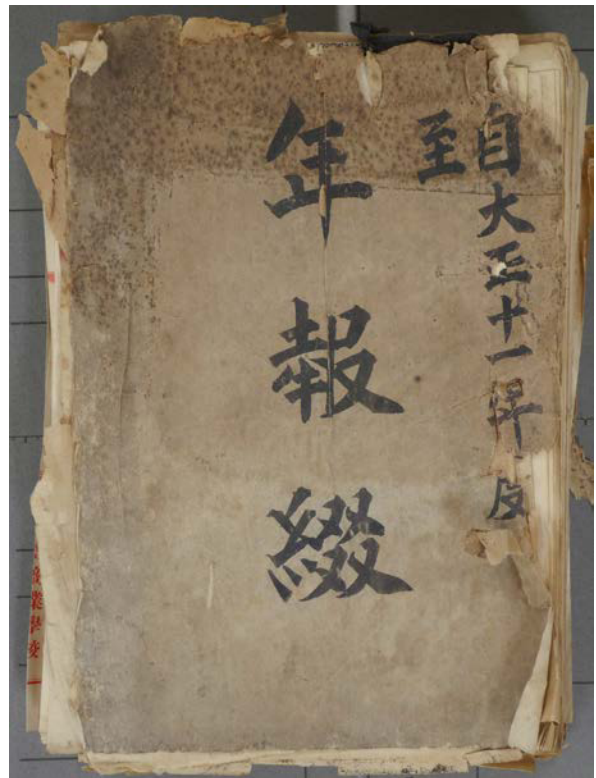


図1 経済経営学類が保管している福島高等商業学校資料の1つ「自大正十一年度 年報綴」。

重資料や関連行事のニュースを「お知らせ」欄などに掲載した。

共催事業・後援事業・協力事業

2017年1月14日～3月26日に開催された南相馬市博物館平成28年度特別展「櫻井先生のあつめた浜通りの花々～櫻井信夫 半世紀、一万点の押し花標本・写真コレクション～」を共催した（図2）。本研究所は、企画、展示資料の貸し出し、パンフレット編集などに関わった。

2016年4月3日に福島大学共生システム理工学類生物標本室で行われた、福島県植物研究会冬季研修会を後援した。この研修会では、学外から18名、学内から8名、合計26名の参加があり、FKSEや標本の見学、『福島県植物誌』（福島県植物誌編さん委員会編集、1987年刊）の証拠標本やデータベースの説明、各自で持ち寄った標本の調査などが行われた。

11月26日～27日に福島大学共生システム理工学類生物標本室で行われた、第12回すげの会同定会を後援した。この同定会では、学外から22名、学内から6名、合計28名の参加があり、生物標本室に寄贈され未整理の斎藤慧コレクションの同定の再検討などが行われた。

7月3日～8月27日にりょうぜんこどもの村遊びと学びのミュージアムで開催された「おはよー！ 種！ second season」の「たねたね展」に資料の貸し出しなど、展示協力を行った。

平成28年度 南相馬市博物館 特別展 (共催: 福島大学資料研究所)

櫻井先生のおつめた 浜通りの花々

～櫻井信夫 半世紀、一万点の
押し花標本・写真コレクション～

平成 1月14日(土)～3月26日(日)

櫻井コレクション

櫻井コレクションは南相馬市在住の櫻井信夫氏が収集した約一万点の押し花標本と、綿密な現地調査による植物の分布情報が蓄積された地図、そして植物の生育環境を収めた多数の写真などからなる資料群です。それらは今では原発事故の影響で立ち入りが制限されている地域や、津波によって大きく様変わりした地域など、震災前の様子を物語るたいへん貴重なものです。

本展では、櫻井コレクションの膨大な資料のうちの一部をご紹介します。これらを通して、震災以前の浜通りの植物の歴史をご体感いただければ幸いです。

櫻井信夫 (さくらいのぶお)

- 昭和5年10月20日生まれ
- 福島県会津地方の旧大沼郡の旭村(現会津美里町)に生まれる。
- 福島県立会津中学校付属準備養成所(教員養成所)に編入。卒業後、旧大沼郡榑川村国民学校にて教鞭をとる。
- 旧大沼郡東尾岐村小学校での勤務を経て、昭和32年に浜通り地方の相馬郡新地村立福田小学校に転勤。以降、小高町立金剛小学校、福浦小学校に勤務する傍ら法政大学の通信教育課程で学士号(文学)を取得。その後、原町市立原町第一小学校、浪江町立浪江小学校を経て再び福浦小学校で勤務。教職の傍ら植物研究を行う。
- 平成3年に退職後、より一層精力的に植物研究を進めつつ、小高町文化財保護審議会委員、社会教育指導員を務める。
- あぶくま生物同好会を発足させ、会長に就任。
- 浪江町史(浪江町の自然)の植物分野を調査・執筆。
- 東日本大震災後は一時避難していたが、小高区の自宅へ帰還。南相馬市博物館の小高区生物調査事業へ参加し現在も植物研究を継続中。

図2 南相馬市博物館平成28年度特別展「櫻井先生のおつめた浜通りの花々～櫻井信夫半世紀、一万点の押し花標本・写真コレクション～」(福島大学資料研究所共催)のパンフレット。